

生まれ変わりの始まり

G3 崔 亨準

インタビュー相手: 崔 原準さん

目次

1. どうして「崔 原準さん」にインタビューしたいか？

- 1-1) 「崔 原準さん」との出会い
- 1-2) 「崔 原準さん」からの影響
- 1-3) 「崔 原準さん」の魅力

2. インタビューで話したこと

- 2-1) 私の「テーマメモ」を読んだ後、感じはどうでしたか？
- 2-2) 私の行動を見ながら感じたのは何ですか？
- 2-3) 崔原準さん、自分が考えている「改善の方法」は何だと思えますか
- 2-4) 私が考えている崔原準さんの魅力は自身がやりたいことに対して頭の中から考え続けていることとそれに対して準備していることだと思いますが、自らの考えが聞きたいです。どのように考えていますか？
- 2-5) もし、考え通り叶られないとないどうしますか
- 2-6) 自分の人間関係の改善法案は何ですか
- 2-7) どうして目で読むことは役に立たないと思えますか？
- 2-8) 先輩と後輩の立場ではなく、ただ第三者として私に助言をしてくれれば？

3. インタビューの結果わかったこと

4. このクラスについて「『日本事情Ⅱ』を振り返って～」

1. どうして「崔 原準さん」にインタビューしたいか

1-1) 「崔 原準さん」との出会い

夏休みが終わって2学期を迎えて秋田大学に新たに来るようになった韓国の「ハンバット大学」の学生たちを含め、留学生の歓迎会が行われました。その時、韓国の人々が集まって自己紹介をしながら挨拶をする時がありました。その中「崔 原準さん」と挨拶をする時私の漢字の名前で真ん中の一文字だけが違い他の文字が全部同じことを確かめて話し合える機会になりました。もっと、詳しく話し合いましたが先祖も同じのを確かめて驚きながらもっと親しく話せるようになりました。これがインタビューしたい人との初め出合いでした。

冗談的な話で、料理が下手な私はほぼ「お弁当」とか手軽に食べられる食べ物で食事をしていると話しましたが、私にくらべ「崔 原準さん」の場合、自分も料理は出来ませんが、ここ日本で一人暮らししているのを機会として自分なりにインターネットでレシピを探して料理を作ってみて色々な経験をしたと話しながら自分も一人で食べるのは寂しいから自分の部屋に来て一緒に食事をしようと言われました。毎朝の食事を一緒にすることが出来て食事しながら様々な話をしました。勿論、今は自分ならではの時間がある特別な日以外を除いて平常通り食事をしてはいますが様々な話が出来ると切っ掛けになったと思います。

去年4月、日本に着いて私は私なりに実力があると思いましたが、日本での生活と私の考えとは差がありました。何より、正確ではない私の発音で日本の方と話し合う時、聞き間違い部分がありました。

最初はこのような間違いは当たり前なことだと思って頑張ろうと思いましたがこういう間違いが続いて私も知らない間、がっかりしてだんだん勇気を失ってしまっただけで最初に持っていたポジティブな考えが消えていたのです。ポジティブな考え方が消えていて、私の考えと共に行動でも自信を失ってしまいました。最初は分からないのが当然だから、恥なしに様々な質問をしましたが発音の間違いを何回も指摘されたりとか他の分野でもがっかりされたことが重なって質問さえ出来ない意気地なしの人になってしまったのです。

(私の考え：最初出会った時、出身学校は違いますが、同じ国、同じ地域という共通点で話し合えることが出来、仲良くなりました。その話の中、私を顧みれる機会が出来て、その機会を基づいて私にとっては新しい人間として生まれ変わる希望を膨らませる、すなわちかけがえの無い機会だと思いました。)

1-2) 「崔 原準さん」からの影響

「崔 原準さん」と話し合っている時、私も知らない間変わった姿を省みて私の間違いも認識することが出来ました。私は私なりに周りを配慮したと思いき、身を低めて話していると思いましたが、それは私の一人の考えにすぎなかったのです。「崔 原準さん」からの考えでは勇気もなく消極的な

人に見え、私に適切な改善の助言も話してくれるようになりました。
「崔 原準さん」の助言を聴きながら、私の姿をもう一度省みることが出来ました。私も認識出来なかった様々な行動を考えながら甘くはない世の中でも生き残るためには大切なことだと思って私自ら変えようとする心構えも持つことが出来ました。まだ、長い時間が経ったことではないですが、まず私の考え方が以前と比べてみれば少しずつ変わっています。勿論、完全に変わったとは言えないですが、何よりポジティブな考えになって自信がなかったので行動で実現出来なかったことが今は頭からどのようにすれば良くなれるのかなどを考えるようになりました。勿論、考えだけで終わったら何もない無駄な考えに過ぎないかもしれませんが、このような変化を始め、徐々に変えようとする思いが何よりこのような変更からの誇りだと思います。そして崔 原準さんと話し合っている時、私が読めば必ず役に立っている本を紹介されました。その本は韓国の「イ ジソン」という作家の作品で題目は「夢見る屋根裏 (www.ekugil.com)」ということでその本を少しずつ読みながら、もう一度やる気まんまんの生活に戻って否定的な考えばかりだった私がポジティブな考えに変わっていることが嬉しかったです。

(私の考え：漠然としてこのままいれば駄目だと思っていたのですが、ポジティブな考えと行動に変えないといけないという一つの狙いが出て私の考えと生活もその方向に向かって変えられるということを感じました。)

1-3) 「崔 原準さん」の魅力

日本で生活するのは私の考えと違う部分が様々あります。まず、私の実力の向上について満足が出来ないことが一番です。でも、ここでがっかりして次に進めないと時間の無駄になると思い、もともと私が目指していた「教員採用試験」についても一度確認することが出来たのが一番良かったと思います。もし、崔原準さんとの出会いがなかったら、まだ日本で暮らせる時間をいつもがっかりしながら過ごしていたかもしれないです。私の日本語の実力が上がらずに止まっているかもしれないけど、ここ日本での生活は私にとっては重要な経験になると思うし、ポジティブに考え方が変わった姿も後で必ず「教員採用試験」にも役に立てると思っていますのでこれからは自信をもって頑張ろうと思います。

「崔 原準さん」の魅力的部分はもし自分が目指したいことがあれば予め、頭の中から考えながらポジティブに考えていることです。勿論、考えていることだけで魅力とは言えないが、何より目指していることについて「崔原準さん」ならではの用意をしている姿が魅力的です。そして、秋田に着いて幾つかがその考え通りに叶えていることを見ていけば、私の心の片隅にも様々な思いが出来ているし励みになっています。もっと詳しいことをインタビューしながら分かりたいと思います。

(私の考え：崔原準さんの魅力的な部分を感じながら少しずつ変わっている私の姿をみていけば、日本語を勉強している私をもう一度省みることが出来ながらポジティブに考え方に対処することが出来るのを感じました。)

2. インタビューで話したこと。

- インタビューの日 : 2008年12月 6日、4時～6時
- インタビューの場所 : 秋田大学留学会館、崔原準の部屋
- インタビューの目的 : 消極的に変わった私の姿をポジティブな姿に変えたいこと。
- インタビューの内容 :

2-1) 私の「テーマメモ」を読んだ後、感じはどうでしたか？

: 他人から自分に対して、このような存在だと認識されている人がいると思って照れたそうです。最初はあまり親しくない人に助言などは話したくなかったが、少しずつ親しくなりながら助言が言えるようになったそうです。その上、相手が自分より年ももっと上の兄にもかかわらず、自分の話を良く聞いてくれて心安く助言が出来るようになったそうです。

2-2) 私の行動を見ながら感じたのは何ですか？

: 亨準さん自身も自ら間違っていることを知っているのに、その間違った行動を繰り返している姿を見ていれば、非常に息苦しくなって自分もその改善法案を教えてあげたかったそうです。そして、崔原準さんは毒舌家で親しくない人とは話もしないですが、自分に対して行った行動を見ていれば確実に変えてあげたいと思い自ら自身と出会ったのは「兄にとっては幸運」だと話しました。その理由は崔原準さんも自ら変えらせる自信感があるのでこのように話せるそうです。もともと、崔原準さんも以前の時と今の時が変わっているし、自ら変わるため「自分の開発の本」を数え切れないほどたくさん読むし今も相変わらず読んでいます。その本のお陰で少しずつ変わっていますが、自分も完全に変わったとは言えないがポジティブな考え方はだれにも負けないくらい良くなったそうです。でも、周りで崔亨準さんの姿を見ていれば、自分自身の間違った姿と同じだと思って変えてあげたかったそうです。

2-3) 崔原準さん、自分が考えている「改善の方法」は何だと思えますか？

: 繰り返して助言をすることだそうです。人間というのはいくら側から助言をしても容易く変わることはないし、因みに言葉で人間を動かすことは地球を手で動かすことと同じように難しいと思います。でも、少しずつ変わっている姿をみていれば可能性があると思い、助言を話し続けようとするそうです。先ほど、言った通り自分の間違った部分を変えるため参考して本を読んだ期間が約7年以上だそうですが今も変わっているところだそうです。その代わり、少し気がかりになっているのは慌しく変えようと思っていらいらしていれば、それによる逆の効果となるかもしれないので気に掛かっているそうです。時間があまりないからそれに執着してせわしく行動せずに人生は長くて広いから日本にいる間完全に变えようとせずに徐々に変わるのを希望しているし率直に言えば早く変わることも出来ないそうです。ただ、側から見ていれば順調に変わっているようですが、今も急いでいる姿が少し気に掛かっているそうです。

2-4) 私が考えている崔原準さんの魅力は自身がやりたいことに対して頭の中から考え続けていることとそれに対して準備していることだと思いますが、自らの考えが聞きたいです。どのように考えていますか？

：私、自ら考えてみれば、排水の陣をしくことしかないそうです。だから、計画を立てて暮らさないと生きられないそうです。生き残るため一生懸命暮らしていますが、このような姿が崔亨準さんを含め、他の人には素晴らしく見えたかもしれないそうです。ここから退く所もないし、ここ日本ではっきりしなければ他の生き残る道もないから、自ら叱りながら一生懸命暮らしているそうです。以前の自分の姿を悔やんでいるし他の学生は地元から送金を頂きながら気楽に過ごしている姿も見えますが、自身は留学しに来るお金も自らためたお金だしここでも「アルバイト」しながら暮らしているが、自分の父母に対して文句も話したくないそうです。自分は他の人と」」比べてみれば暮らしづらいかもかもしれませんが、その代わりに、もっと強くなった自分の姿を見れば父母に対してはありがたい感じばかりだそうです。ただ、生き残るため、厳格に暮らしている姿が他の視線では素晴らしく見えたかもしれないそうです。

2-5) もし、考え通り叶られないとないとどうしますか？

：予め考えながら、考え通り行動している間唯一に叶えられなかったのは男女を問わずに人間関係についてまだ薄すぎるのが心掛だそうです。自分は好き嫌いが確実な方だからもし一度嫌になるとその人は自分の思考方式から除きますので自ら薄すぎる人間関係が心掛になるそうです。取りあえず、ここ日本に着いてから初めに会った人の中でも見た目だけで出来た先入観のせいでその人をまるっきり相手にしないのが自ら心配だそうです。

2-6) 自分の人間関係の改善法案は何ですか？

：朝ごとに自分自ら変えようとするそうです。でも、急いでしないそうです。急いで試してみてもイライラする気持ちになって逆効果になるかもしれないからゆるやかに一つ一つ変えながら完璧な人になろうと思って努力しているそうです。自分自ら「私の人生の目標」と書いてある用紙をいつも読みながらその用紙に書いてある内容より10倍を超えて成し遂げようと思いながら自分の可能性を信じながら大きい声で読むそうです。何より、ただ目で読むことより必ず声を出しながら読まないといけないそうです。一例として、40歳になるまで必ず10億円を叶えたい考えです。

2-7) どうして目で読むことは役に立たないと思いますか？

：ただ、目で読むことは積極性が足りないし自分が読んでいる参考の本にも声を出しながら読んだ方が良いと書いてあるそうです。

2-8) 先輩と後輩の立場ではなく、ただ第三者として私に助言をしてくれればどのように話したいですか？

：もし、自分の後輩の立場ならば殴りたかったそうです。もともと息苦しい人ならばもともとからそのような人だと思い何も思わずに気にしないですが、崔亨準さん自分も変えようと思っているし、その理由で自身も助言を話し続けたかったそうです。でも、何よりいらいらしている姿が見えると哀れむそうです。

そして、間違っている部分を自ら知っているのに繰り返しているのが惜しいそうです。因みに他の例として自分も早口ということを改善しようと思っているのに話し続けている早口の姿を見ていれば惜しいそうです。そして、年が下の自分の話を聞いてくれて素晴らしい人だと思ったそうです。素晴らしい人だと考えるようになった理由は、今の世の中は現実的に変わっていて他の人の話は全然聞かなくてももし聞いていてもその時だけの「個人主義」の世界なのに崔亨準さんはこれと違い弟の話にもかかわらず良く聞いていることだそうです。ただ、切ないことは自分も「マイナス的な考え方」を改善しようとしていても、間違っただ行動を繰り返している姿が切ないそうです。

ここ日本に着いて「アルバイト」で自分が考えている目標の金額がありますが、今はほぼその目標の金額に近付いているし自分自らも満足感を感じているそうです。初めのときは半信半疑だったのですが、本当に信じてすれば叶えられるそうです。因みに、このようになったのは目指していることを紙に書いておいて繰り返して読んでいるの力だと思うそうです。半信半疑よりポジティブな考えで行動すれば必ず叶えられるそうです。因みにおおざっぱに考えることより生々しく考えると必ず叶えられるということを強調したいそうです。このような姿になったのは繰り返して読んだ参考の本の力だそうです。他の人は手軽に一度読んだあと忘れてしまいますが、自分はその本の内容を繰り返して読みながらその内容を守るために精一杯足をばたつかせたそうです。

何よりすれば出来ないものはない。。。すれば出来るを強調したいそうです。因みに崔亨準さんを見れば他の人を配慮するため自分の限界を予め作っている姿について腹が立つそうです。じっと見れば自分より規則的な生活、例えば朝起きることから授業のための予習とか自分なりに考えている予定などを含めてもっと自分より規則的に過ごしていることにもかかわらず他の人を拡大しすぎて見ているそうです。

その理由は崔亨準さんが持っている「自分自身に関する否定」からだそうです。考えから否定で始まるとその考え通りになることが当然のことだから自分と妥協しないために自分自身も努力しないといけないそうです。何より、自分に負けたら終わりだそうです。少し前の時は原準さん自分も自身との戦いで負けたことがありましたが今は勝っている自分の姿に対して自分も満足しているそうです。

3. インタビューの結果わかったこと。

：テーマメモにも書いてあるように日本で暮らしている間、日本語の実力が考えとは違ってあまり向上してないことを体から直接感じたのが私の「マイナス的な考え方」でした。でも、崔原準さんとインタビューをしながら再び感じたことは相手のポジティブな考えで私なりに様々な考えが出来ました。単刀直入に言えば、インタビューした相手の魅力は「ポジティブな考え」だと思います。それは自分がしたいこととか目指していることに対して調べてみて予め頭の中から考え続けながら、その内容に及べるように用意する姿勢です。このような考え方は自分も知らない間、その基準に及べるように頑張っているようになっているし、その影響でポジティブになっている部分が魅力的です。勿論、参考の本の力も無視出来ませんがその本を基づいて予め持っていた考えに合わせるために自分も努力が出来ると思います。万が一、自分の考え通り

に出来なくても落ち着かずにもっと輝く自分の未来を考えながら暮らしていることです。

崔原準さんの魅力、即ち「未来志向的な考えとポジティブな考え」そして、その基準に合わせるために頑張っている姿を私にも習慣化させたら、だんだん忘れていた勇気が出来て、その勇気を基づいていくら難しいことでも挑める自身が出来ると思います。

この自身は今から輝く私の将来についても大きい助けになると思います。

「案ずるより産むが易い」という日本の諺があるように 崔原準さんの魅力を私に生かして頑張ったら今目指している韓国で日本語の先生になるために進んでいる過程とその後の人生にもかけがいの無い宝物になると思います。

4. このクラスについて「『日本事情Ⅱ』」を振り返って

：最初はインタビューすべきだと言われた時は興味がありましたが、そんなに深く考えなかったです。でも、この授業の進み方に合わせて「テーマメモ」を書きながら一つ一つの時間を進めながら本当に早めにインタビューしてもっと詳しく分かりたくなったらそのインタビューを通じて私自らも忘れていた姿をもう一度探せるようになって私のにとっては本当に役に立つ授業でした。そして私のグループで初めて出会った日本の方(3人)と変わらずに1学期の間続けて同じ活動などが出来て中途半端な関わりより親しくなれたことも忘れられない経験だと思います。